

講義名	経営管理論B（マーケティング学科 2年生+3年生以上）			
担当教員	長田 貴仁			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

主題：起業家（企業家）の実像と起業の現実。
概要：分かり易く言えば「起業」に関する授業である。起業家に少しでも興味があれば受講し、そのアングルから「経営管理」を学んで欲しい。
「起業」は、今や特別な人のものだけでなく「日常」になってしまった。起業力は「独立型起業家」だけに求められる資質ではない。今や、会社に就職した後、サラリーマンを続ける中で、起業力に磨きをかけ独立しようとする人、社内で新規事業を起こす「社内起業家」、そして、親の事業を単に継承するだけでなく、新たな事業を起こそうとする新規事業創造型の「後継者」などにも、起業力が不可欠になってきた。こうした現代ビジネス潮流に対応するために、本講義では、幅広いニーズに応えられるように内容をアレンジして「アントレプレナーシップ」を教授する。

到達目標

- 「起業」および「起業家（企業家）」に関する知識が深まる。
- 抱くだけでなく、企業に就職しても求められる「事業構想力」を磨ける。
- 起業家（企業家）の実像を知ることができる。

提出課題

適宜指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

QAタイムを設け、質疑応答する。

評価の基準

期末レポート50%、講義期間内求める提出物50%
今後、コロナウイルス感染拡大の状況変化に伴い、講義形式の変更も想定されるが、そうなった場合でも成績評価方法は変更しない。
本講義は、現代ビジネス社会の評価基準である「信責必前」を適用する。
良い結果を出した人は高く評価する。本講義開始後に守らない場合は、「契約違反」として処する。
「現代ビジネスの基本」は契約である。履修登録した段階で、以下の契約内容に同意したことになる。
1. 「ネアカ」のびのびへこたれず、の精神を体現し、組織（クラス）のモチベーションを高める前向きな姿勢をさせた人は努力点として加算する
2. 地の利目と同様、出席は当たり前。無断欠席は大幅減点。欠席する場合は証明書（例：公文書、医師の診断書）の提出を求められる。提出せよ。
3. 開講前、私生活、結婚（クラス）を落こす迷惑行為、業精（授業）を妨害する行動、発言については、処本書の提出を求める場合がある。その結果しだいで、大幅減点になることを認識し「成人としての行動」を心掛けて欲しい。

履修にあたっての注意・助言他

- 原則として、1回につき、1頁分の内容を講義する。テキストの予習、復習を欠かさないこと。ただ座り、ボーと聞いているという態度は嫌んで欲しい。講義中はノートに記す作業を怠らないこと。
- 毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。「自産ビジネス」、「東洋経済」、「タタヤモンド」、「エコノミスト」などのビジネス週刊誌も定期的に自を道ておき、高た「情報武装」しておくことが望ましい。
- テーマを決め、それに関する記事をスクラップブックに貼り（デジタル処理してもいい）、熟読し関連情報を調べること。

教科書	.1からのアントレプレナーシップ、	山田 幸三/江島 由裕【編著】	中央経済社	2,400円	978-4502222818

プリント資料及び参考文献

適宜配布する。

授業計画

- 「社長に経営学など必要ない」は本当ですか。
- 「社長は金の亡者」なのですか。
- 「世の中はきれいごとじゃないんだ」と言っている社長は成功しますか。
- 僕も、私も「起業家」になれますか。
- サラリーマンになると起業できないのでしょうか。
- 在学中に「起業家」になってみませんか。
- 「社会に貢献したい」という気持ちは分かりますが、甘くはないぞ。
- 会社をつくるだけなら「力」でもできる。持続的に成長させるにはどうすればいいのですか。
- 「儲かる会社」を実現するには誰と付き合えばいいのですか。
- 自分（自社）の長所に気づいていないのは人も会社も同じ。
- 「長続きしている会社」の良し悪し。
- 「あの人は…人だから」などと言っている時代ではありません。
- 海外進出しない会社は、生き残れないのですか。
- 「エコシステム」って聞けれど、環境問題のこと？

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：1時間＝テキストをざらざら読み進めること。
復習：1時間＝講義中にメモした内容とテキストの内容を合体させ、「自分ノート」に記し、編集すること。
毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

「知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材」を育成するため。
1. 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる（情報収集力）
2. 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）
を高める。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。著名経営者やビジネスマン、技術者にインタビュー、執筆、編集した経験をもとに、現代ビジネスの実態について言及し、経営学とジャーナリズムの観点から理論的・実践的知識を教授する。

備考

ビジネス誌「プレジデント」編集部を経て、2005年4月、神戸大学大学院経営学研究科(准)教授に就任したのを皮切りに大学の世界に入りました。その後、複数の大学、大学院で一般学生だけでなく、社会人も教えてきました。その中には現役社長も数名いらっしゃいました。これまで、ニューヨーク駐在の他、世界各国で多くの企業エグゼクティブを取材してきました。経営学とビジネス・ジャーナリズムを結合した視座から論じたガビオンを、学界（学会）に留まらず広く社会に向けて、分かり易い言葉で発信し続けています。ジャーナリズムを知る経営学者、経営学を知るジャーナリストです。現在も、新聞、ビジネス誌などを中心に、執筆し、コメントを発信しています。私の最大の特徴は、実際に戦後の日本経済の成長を支えた日本を代表する経営者たちと実際に対話してきたことです。そこから得た知見を生かし、「生きた経営学」を教授したいと考えています。